



令和七年度 第五二回

羽島市文芸祭（小・中学生）

三賞作品集



目次

短歌部門	………	1ページ
俳句部門	………	4ページ
現代詩部門	………	7ページ

短歌部門

〈文芸祭賞〉

中島中学校二年 河嶋 航太

明け方に靴紐結び走り出す

自分のリズムに耳をすませて

〔評〕

「明け方に靴紐結び走り出す」と、作者の映像を上句でしっかり描写、下句で「自分のリズムに耳をすませて」には、律動を聞き澄ます聴覚が働いています。マラソンという「動」の世界を詠っていますが、静謐感のある優れた作品です。

〈優秀賞〉

福寿小学校三年 加納 汐莉

せみがいるみいみいなくてえだにいた

ねるときなくてあさなっていた

〔評〕

ひらがなのみの歌ですが、定型が守られているのでリズム感があります。一日中鳴いて、自分の寝ている間も鳴いて、翌朝も鳴いていゝことの持続性に作者は驚いて、あるいは生命力の激しさを感じとったのではないのでしょうか。

テスト期間もつと時間が欲しいのに

私を無視して日はまたいでく

〔評〕

「テスト期間」も時間は待ってくれません。「またぐ」は「跨ぐ」でしょう。自分の上を越えていくことですが、「時」に規定、束縛されているような思いへ一歩踏み込んで、スケールの大きい作品となりました。

〈秀作賞〉

中央小学校四年 滝 遥馬

ころもがえひきだしあけていれかえる

今年もよろしく夏のふくたち

〔評〕

ひきだしに眠っていた夏ふくたちを擬人化し話しかけながらの「ころもがえ」。「今年もよろしく」と未知へのわくわく感があふれています。

福寿小学校六年 櫻木 陸斗

夏休み伝記をたくさん読んでみた

会ってみたいな昔の偉人

〔評〕

自分の知らない時代の偉人たちの「伝記」をたくさん読んだ充実した夏休み。学生時代の読書は宝物。さらに「会ってみたい」という若い好奇心がまぶしい作品です。

中央中学校二年 鵜飼 美優

あたりまえだったはずの日常も

ふいにこわくて抱きしめていた

〔評〕

今、日常で起きている災害、事件、事故そして戦争。大きなテーマを詠っています。「ふいにこわくて抱きしめていた」は、①自分で自分を ②日常を のふたつの意味があり、一首の読みを深めています。

〈審査員作品〉

藤田 正代

冷水に飛び込むやうに酷暑日を

スーパの冷房に入りゆく

髪細くなったと思ふなにもかも

痩せてゆくらし 赤いそうめん

緩慢に別れに向かふ日のあはひ

たれも憎まず生きてゆきたし

松野 律子

憎むこと怯えることのみ記憶する

こどものひとみの中の戦場

前線に消えし兵士ら軽き身に

なれただらうか風に乗るため

国境のなき世界地図、息の思い

こもる二万ピースのパズル

〔総評〕

ことさら暑く長かった夏、そんな中たくさんの方の応募がありました。

今年は、小学生二五三首(一九七人)、中学生一六五首(一〇七人)でした。まだ短歌を学ぶことのない生徒さんも多かったことでしょう。だからこそ新鮮な気持ちで選をさせていただきました。

短歌には特別な決まりはありません(季語など)。しかし、五・七・五・七・七という三一文字の定型があります。これが「短歌」(短い歌)です。少しの乱れは気にしませんが、結句(一番最後)が五音だったり六音だと歌のリズムが止まってしまい、せっかくの歌も台無しになることがあります。

「楽しみは…時」は、教科書にあるようですが、「楽しみは」を外して楽しい歌が詠めるといいですね。歌に出会い選歌に迷うことは嬉しいことです。採ることができなかった作品も大差が有るわけではありませんが、同じ筆跡の歌が数首つづけば、これは誰が詠んだ歌? と思ってしまうこともあります。一人一人が自身の思いを自分の手で書いたものは尊いものです。

賞のひとの作品をよみ、参考にしていただければ幸いです。

評 藤田 正代

松野 律子

俳句部門

〈文芸祭賞〉

小熊小学校四年 南谷 心香

あじさいのきれいな青が雨をよぶ

〔評〕

あじさいの青色と雨がふることには何かつながりがあるというわけではありません。しかしあじさいがきれいに咲くことによって雨をよぶと言うとらえ方は、まさに詩的な表現だと思えます。色々な花の中からあじさいをえらんで俳句により入れた点がよろしいですね。

〈優秀賞〉

正木小学校五年 大澤 慶

くじ引きは闇の屋台の夏祭り

〔評〕

さて闇の屋台とはどのような屋台でしょうか。恐らく人通りの多い所では、はばかれる品物を扱っているのかも知れません。時に人はそうしたお店にひかれますね。

雪達磨その目に星を映しけり

〔評〕

雪が降って雪だるまが作られて。その後は星の夜空だったのですね。雪だるまの眼には何かが用いられたのかは分かりませんが、作者としては、雪だるまは必ず星を見ていると信じたのでしょう。

〈秀作賞〉

竹鼻小学校四年 田中 優衣

なつやすみかぞくそろってハンズボン

〔評〕

人は大きくなるに従い半ズボンは履かなくなりますが、作者の家族は全員で半ズボンを履いていたのですね。暑いあつい夏の日が続きました。

アキアカネオレンジ色の空およぐ

〔評〕

俳句は上手な組み合わせをすることによって素敵な詩の世界を生みだします。この句はアキアカネと言うとんぼと、夕暮れ近い空との色の取り合わせによって、美しい詩の世界を生み出したと申せます。

福寿小学校六年 番 爽志

たのしみはさんぽついでのかなまづとり

〔評〕

五、六十年前には、田川に結構鯰がいたものでした。魚釣りの際に魚ではなく鯰が針にかかる大変。針を外すのに手間がかかりました。

さてこの句に詠まれた鯰はどの様にして捕ったのでしょうか。恐らく草むらの下の鯰が住処としていた穴を掘って捕ったのではないかと思います。

〈審査員作品〉

櫛 未知子

ゆつくりとかなしむために吾亦紅

眠るたび父は銀河に近づきぬ

東京の夜景に薔薇を加へけり

清水 青風

気丈なる山を揃へて美濃秋へ

白障子閉めて記憶の友封ず

墓百基楚々と撫でゆく秋の風

〔総評〕

小中学生の俳句作品を見ていつも感じることは、視線の新鮮なところ、視点の多様なことです。大人の気付かぬ点を示されて、ハッとすることが多々あります。加えて、取り上げた句材が詩になり易いことも小中学生の作品の特徴と申せます。

加えて地域の特異性も子ども達は容易に捉えると申して良いかも知れません。今回の作品群を拝見しても斯様なことを感じ取りました。詩心と言うのは人間形成に於いても極めて有効的な人間味の一つだと申せます。

羽島市の小中学生の皆さんの更なる関心、努力を期待して居ります。

評 權 未知子

清水 青風

現代詩部門

〈文芸祭賞〉

挑戦へ続く

竹鼻中学校一年 川崎 菜音心

コートに立ち
ラケットを持つ チャレンジヤー
風をかき分けるような足音が
コート中に響く

サーブを打つ音が コート中に
響く

力強く打った速い球
ダンスのように
飛び回る

この一撃が運命を決める

空中で交わるボール
毎回新しい挑戦を抱えて
このチャレンジは
——終わることなく続く

〔評〕

一瞬一瞬に気を張ってコートに立つ主人公。風をかき分けるような足音やサーブを打つ音が響きます。ボールは作者に生命力を与えているようにも読み取れ頼もしく思えます。

〈優秀賞〉

わたしのおうちのお友だち

正木小学校二年 不破 琴音

いまからわたしのお友だちをしようかいするよ。

ひとりめは、コナンくんです

えいがを見に行った時に、お友だちになったよ

いつも出かける前にあいさつをするよ

これからもよろしくね

ふたりめは、かめさんです

海のおんせんに行った時に、お友だちになったよ

毎日いっしょにねてるよ

これからもいっしょにねようね

さんにんめは、ミヤクミヤクシナモンロールちゃんです

ばんぱくに行った時にお友だちになったよ

いつもかわいいかおでわたしを見てるよ

これからもかわいいかおでいてね

みんな、これからもなかよくしようね

〔評〕

大切な友達。それは、いつも挨拶するコナン君、一緒に寝ているかめさん、私を見ているミヤクミヤクシナモンロールちゃん、全て作者の支えになっていくるのでしよう。ご紹介ありがとうございます。よろしくね。

夏の音

羽島中学校一年 大島 帆夏

夏は様々な音が聞こえてくる

元氣よく鳴く虫の音

甲子園で一丸となる応援の音

風に揺れる心地よい風鈴の音

祭りで一緒になれる太鼓の音

勢いよく流れる涼しい波の音

明かりを灯す花火が打ち上がる音

耳を澄ましてみよう

新しい夏を発見するために

〔評〕

虫、応援、風鈴、太鼓、波、花火：作者が提示している夏はまさに音のパラダイス。今年も猛暑の長い夏でした。そんな中にも音に想いを馳せる十三歳素敵です。

〈秀作賞〉

五人のダンシーズ

小熊小学校二年 脊戸 恵喜

まさしくんやさしくてあたまいい

とうやくん足がはやくてかつこいい

ゆいとくんおもしろいな

はるきくんいつもともだちやさしいな

じぶんおこるとこわい

五人のダンシーズともだちです

〔評〕

こんな友達紹介が出来るなんて楽しいこと！それを「ダンシーズ」と呼ぶネーミングにも爽やかさと華やかがあります。どんなお顔かしら？お会いしたくなります。

可愛いカナヘビ

正木小学校五年 不破 彩斗

カナヘビを見つけると
わあわあ子ども達が捕まえにくる
いろんなところが可愛いカナヘビ
いっぱい観察したい
カマキリも食べられる瞬発力
なっばは食べない肉食性
ヘビが名前にあるけどヘビじゃないよ
ビニールなどで捕まえよう

ほら、横むきに読んでみて

〔評〕

このように、謎解きのような言葉遊びのような詩も楽しいですね。教科書教材の発展詩作ですね。なぜかカナヘビは小学生にモテるんですよね(私はいやだけど)。カナヘビは詩モデルデビューで喜んでいきますよ。きつと。

ピアノの音と心

竹鼻小学校三年 浅野 日向子

ポロン ポロン
ピアノは一人じゃ音は出せない
けど、
だれかがやさしくひくと
やさしい音を出す
だれかがさびしくひくと
悲しい音を出す
だれかがおこってひくと
ピアノもらんぼうな音を出す
ピアノは
ひく人の心をうつすかがみ
ピアノは一人じゃ何もできない
けど
いつもだれかといっしょに
人の心をうつし出す

〔評〕

文末「いつも誰かと一緒に人の心を写し出す」のフレーズで、作者がいかに音色をめめているかが想像できます。優しい時も怒っている時も一体なのですね。

〈審査員作品〉

Fさん

とやま さわこ

クラスが変わり

塾も変わってしまったFさん

何週間ぶりだろう

ちよとぽちちやりした?

ア 髪型がちよと変わった?

でも今までと同じように友達と笑いながら話してる

ギャハハの笑い声も

くちやつとした笑い顔も

体を折るようになって笑う姿も

全部以前と同じだ

髪が揺れて光る

僕は知らないうちに

Fさんから

明るさのおすそ分けをもらっていたのかもしれない

ああ

なんだかすっきりした気分

ヨッシャー!

〔総評〕

小中学生の皆さんの作品、一六八篇を二人で拝見させていただきました。

最近、タブレット使用の機会が多くなり、鉛筆を握って文章を書く機会は極めて少なくなってきたと思います。しかしそんな中、寄せられた作品からは、作者の思いの強さそのままが文字化されて私どもの胸の扉をノックしてくれました。まずは、心を開放しチャレンジ出来たことに拍手を送りたいと思います。

ただ、少々気になる点もありました。(はたしてこの作品は、本当に本人が書いたかったことだったのかな?)ということでした。全身から湧き上がる思いを読み手に伝えたい!と思うとき、紙面上にはやはりそれなりの様相がにじみ出るものなのです。(何も書くことが無いからこれでも書いておけばすむやあ)なんていう気持ちで書くと、やはりそれは響く力が弱まり読み手の心には届きにくくなってしまうのです。

難しく考えることはありません。今日の一日を、あるいは一週間を振り返ってみて、心がピクツとした一瞬を思い出すのです。友達の欠席?お父さんの言葉に腹が立ったこと?塾に行きたくなかったこと?気になったニュース?気になる友達からのメール?等々、心がピクツと動いたことがたくさんありましたよね。そのピクツの動きについて書いてみてはいかがでしょう。よく自分の心の動きを思い出してみてください。そしてそれを書くのです。

では、来年度もあなたの「ピクツ」の作品をお待ちしています。

評 稲垣 和秋

外山 澤子

令和7年度 第52回 羽島市文芸祭（小・中学生の部）

【趣 旨】

文芸への創作意欲を高め、文芸活動の振興とともに地域文化の向上を図ることを目的とする。

【募集部門】

部門	応募点数	題	審査員
短 歌	1人2首以内	題材自由	藤田 正代・松野 律子
俳 句	1人2句以内	季語自由	櫛 未知子・清水 青風
現代詩	1人1篇	題材自由	稲垣 和秋・外山 澤子

【三賞・入選選考結果】

部 門		応募者数	応募点数	三 賞	入 選	入賞・入選合計
短 歌	小学校	197	253	6	27	49
	中学校	107	165		16	
	部門小計	304	418	6	43	
俳 句	小学校	492	756	6	84	105
	中学校	113	199		15	
	部門小計	605	955	6	99	
現 代 詩	小学校	63	63	6	5	20
	中学校	105	105		9	
	部門小計	168	168	6	14	
合 計	小学校	752	1,072	18	116	174
	中学校	325	469		40	
	合 計	1,077	1,541	18	156	

羽島市市民協働部
生涯学習課

羽島市竹鼻町 55 番地

TEL 058(392)1111

令和 7 年 11 月